

# 大会宣言

宮崎県内の、令和5年の労働災害による死亡者数は前年より4人減少し13人であった。また、休業4日以上之死傷者数は、新型コロナウイルス感染症を除いて、前年より107人減少の1,508人であった。

宮崎県内の労働災害は、減少傾向に見えるものの、長期的には増加傾向にある。令和6年は死亡災害が増加しており、墜落・転落や伐倒木の激突などによる災害も依然として後を絶たず、死亡災害の撲滅が急務となっている。また、60歳以上の高年齢労働者の労働災害は、全体の35%を占め、転倒や腰痛といった労働者の作業行動を起因とする労働災害が増加し続けている。

高年齢労働者が安心して安全に働ける職場環境の実現に向け、リスクアセスメントの実施、職場環境改善、体力チェックの実施などの取組みや4S活動をはじめとする転倒災害防止対策を推進する必要がある。

労働者の健康をめぐっては、一般健康診断の有所見率が上昇を続け労働者の約6割にいたっている。また、何らかの病気を抱えながら働いている労働者が増加しており、職場における健康管理や治療と仕事の両立支援は引き続き重要である。

人手不足やコスト高など、企業を取り巻く環境には大変厳しいものがあるが、情勢がいかに厳しくとも、「安心して働ける職場環境を実現することは、すべての働く人、県民の願いである。そのため、事業者も労働者も関係者すべてが宮崎労働局第14次労働災害防止推進計画に掲げられた重点事項を確実に実施することが求められる。

本大会を契機に、参加者一人ひとりがゼロ災運動の原点に立ち返って、人命尊重の基本理念を再確認し、安全で健康・快適な職場作りに向けて全力を尽くすことをここに誓う。

右、宣言する。

令和6年11月13日

令和6年度宮崎県産業安全衛生大会